



いせものせり い 伊勢物語 ぶん 文暦本 (重要美術品)

一冊 伝冷泉為相筆 鎌倉中期写

縦 15.4 cm 横 14.5 cm

「昔男ありけり」で始まる『伊勢物語』は、古典の代表作として、馴染み深い作品の一つである。在原業平を思わせる「おとこ」の恋愛世界を、恋の歌を中心とした小話百二十五段でつづる、歌物語の傑作。

『源氏物語』には『在五が物語』という書名でも登場し、当時は「在五」即ち在原氏の五男である在原業平（八二五〜八八〇）の著作であると考えられていた。しかし、江戸期に入り、業平没後の物語が含まれている、という国学者の指摘により作者不明とされるに至った。一方、中には内

容の古い話も見られ、業平が成立に関わっていた可能性もあながち否定出来ない。

文化人の必読書となった本書は、多くの古写本を伝えている。天理図書館は鎌倉・室町期のもの三十点余りを含め、七十点に及ぶ古写本を所蔵しており、内五点は重要美術品に認定されている。『伊勢物語』のコレクションでは、古写本の他、絵画や漆器等多様な収蔵品で有名な鉄心斎文庫がある。その他、数点の善本を所蔵されているところはあがるが、天理図書館のように鎌倉から江戸に至る、本文や注釈書等の古写本類、古活字本



業平像（三十六歌仙）

や版本まで、幅広く蒐集している施設は見当らない。

伝存古写本の殆どは、根源本と称される藤原定家の書写本を元としており、写真の資料もその一つ。定家の孫に当たり、冷泉家の始祖となった藤原為相（一二六三〜一三二八）が文暦二年（一二三五）の奥書を持つ本を書写したものの。定家晩年の書写内容を窺わせる重要な古写本である。

（天理図書館 大西光幸）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし5月3日～5日、29日は休み
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）